



2021年2月10日

各位

会社名 国際石油開発帝石株式会社
 代表者名 代表取締役社長 上田 隆之
 (コード番号 1605 東証第一部)
 問合せ先 広報・IR エグジティブ・マネージャー 細野 宗宏
 電話番号 03-5572-0233

個別決算における関係会社株式評価損の計上及び個別業績に関するお知らせ

これまで個別（国際石油開発帝石株式会社単体）の業績予想につきましては、重要性の観点から公表を行っておりませんが、2020年12月期業績につきまして、前期実績値と差異が生じたので、お知らせいたします。また、2020年12月期の国際石油開発帝石株単体決算において、関係会社株式評価損を計上いたしましたので、お知らせいたします。

1. 2020年12月期 国際石油開発帝石株単体業績の前期実績値との差異について

(1) 国際石油開発帝石株単体業績の前期実績値との差異（2020年1月1日～2020年12月31日）

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|-------------|----------------|--------------|---------------|---------------|----------------|
| 前年実績 (A) | 百万円 107,183 | 百万円 4,616 | 百万円 19,664 | 百万円 13,465 | 円 銭 9.22 |
| 実績 (B) | 127,676 | △3,772 | △134,321 | △130,660 | △89.48 |
| 増減額 (B - A) | 20,493 | △8,389 | △153,986 | △144,125 | |
| 増減率 (%) | — | — | — | — | |

当社は、前事業年度より決算期を3月31日から12月31日に変更しました。これに伴い、当事業年度（2020年1月1日から2020年12月31日）と、比較対象となる前事業年度（2019年4月1日から2019年12月31日）の期間が異なるため、対前期増減率は記載していません。

(2) 差異が生じた理由

当期の決算については、新型コロナウイルス感染症による国内事業で想定していたガス既存需要の減少やガス販売価格の下落等により営業損失は△37億円を計上しました（前期営業利益46億円）。さらに営業外費用として1,615億円の関係会社株式評価損（子会社における減損損失の計上を主要因としたもの）を計上した影響により、経常損失は△1,343億円（前期経常利益196億円）となり、当期純損失△1,306億円（前期当期純利益134億円）の計上となりました。

2. 関係会社株式評価損（国際石油開発帝石株単体決算）の計上について

当期国際石油開発帝石株単体決算において、当社が保有する関係会社株式の評価を行ったところ、以下2社について、2020年6月期決算で計上した減損損失を主要因として、それぞれ期末の1株当たり純資産価額が簿価の50%を下回るため、関係会社株式評価損1,615億円を営業外損失に計上することといたしました。

| 関係会社 | 関係会社株式評価損計上金額 |
|-----------------------------------|---------------|
| INPEX Oil & Gas Australia Pty Ltd | 987億円 |
| INPEX Americas, Inc. | 628億円 |
| 合計 | 1,615億円 |

なお、連結決算においては、上記2社を含む減損損失について、2020年8月6日に開示したとおり、2020年12月期の業績に計上済みです。また、本日発表の決算短信に最終的な金額を記載しております。

以上